# 図書館だより

## 6月3号

令和４年６月２３日(木)
第一日暮里小学校
校長　白井　一之
学校図書館プロジェクト

## 読書旬間です～図書集会　ブックデリバリー　親子で読書～

図書委員会が各教室に回ってイベントの説明をしてくれました

ブックデリバリーの様子

６月１４日には図書委員会児童による図書集会がありました。図書館の使い方やマナーについての〇×クイズを通して、改めて図書館の使い方を学ぶことができました。また、読書旬間に合わせたイベントについても説明をしてくれました。

６月２０日から２週間は、一日小読書旬間になります。学校では「ブックデリバリー」、家庭では「親子で読書」の取り組みをします。自分で選ぶ読書ではなかなか出合えない本と出合えるチャンスでもある取り組みです。ブックランドの近くの本棚には、図書委員のおすすめの本が展示されていますので、本選びの参考にしてみてください。また、クイズイベントにも参加し、読書をより楽しみましょう。

夏休みにも「親子で読書」を予定しています。Motto Sokka なども活用して「家読」に取り組み、今まで読んだことのないジャンルの本や話題の本、友達の紹介で気になっていた本などを読んでみましょう。

# 青少年読書感想文全国コンクール
# 課題図書を紹介します

学校図書館でも借りられます

## 課題図書って なに?

読書感想文コンクールの主催者が指定した本です。
本の専門家の先生方が、新しく出版された本の中から選びました。
年齢に合わせて、多くの感動や新たな知識を得られたりする本を、
フィクション、ノンフィクション、外国作品などから選んだものです。

## ていがくねん　1、2年生

### ＊『つくしちゃんとおねえちゃん』　いとうみく/作　丹地陽子/絵　福音館書店

つくしのおねえちゃんは　あたまがよくて　ものしりで　しっかりものです。ちょっといばりんぼうだけど、じまんのおねえちゃんです。ときどき　けんかをするけれど、おたがいを　おもいやる　二人のようすがわかる　5つのおはなしが入っています。

### ＊『ばあばにえがおをとどけてあげる』　ｺｰﾘﾝ･ｱｰｳﾞｪﾘｽ/文　ｲｻﾞﾍﾞﾙ･ﾌｫﾗｽ/絵　まつかわまゆみ/訳　評論社

えがおがすてきだった　ばあばが、さいきん　わらわなくなってしまいました。大すきな　ばあばのために、ファーンは　こうえんへでかけ、ばあばの「よろこび」をさがします。よろこびをみつけるのは　かんたんだけど、つかまえるのは　むずかしいのです。ファーンは　からっぽのバッグをもって　ばあばのところにいくのですが…。

### ＊『すうがくでせかいをみるの』　ﾐｹﾞﾙ･ﾀﾝｺ/作　福本友美子/訳　ほるぷ出版

みなさんには　とくいなことや　すきなことが　ありますか。この絵本にでてくる　女の子は、「すうがく」が　すきです。このせかいは「すうがく」で　あふれていることに　きづき、わくわくします。「じぶんなら　これがすき。」を　さがしてみると　たのしいですよ。

### ＊『おすしやさんにいらっしゃい!　生きものが食べものになるまで』　おかだだいすけ/文　遠藤宏/写真　岩崎書店

おすしのネタになっている魚たちが、海でつりあげられ　さばかれて　おすしになるまでの　ようすがわかる　しゃしん絵本です。わたしたちは　生きものをたべて　成長しています。さいごに　かかれている　「わたしたちは　たくさんのいのちで　できているんだ。」「ごちそうさまでした。」が　こころに　ひびきます。

## 中学年 3、4年生

### ＊『みんなのためいき図鑑』　村上しいこ/作　中田いくみ/絵　童心社

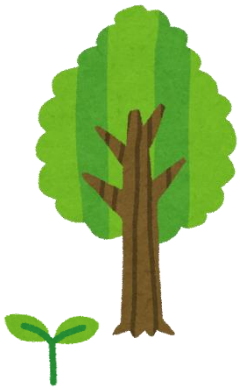
参観日にグループでまとめた「図鑑」を発表することになったのに、ぼくたちの班は何を発表するのかなかなか決まりません。メンバーの加世堂さんは保健室登校なので、ぼくが図鑑のことを伝えに行きます。ぼくは加世堂さんに絵を描いてほしいのに、メンバーの小雪が自分も描きたいと言い出して、話し合いはますます進まないのです。小雪にも譲りたくない理由があって…。

### ＊『チョコレートタッチ』　ﾊﾟﾄﾘｯｸ・ｽｷｰﾝ・ｷｬﾄﾘﾝｸﾞ/作　佐藤淑子/訳　伊津野果地/絵　文研出版

ジョンはお菓子が大好きな男の子。とくにチョコレートに目がありません。ときどき食事の前にお菓子を食べて、両親に注意されています。ある日道でめずらしいコインをひろい、不思議なお店でチョコレートと交換してしまいます。そのチョコレートを食べたてから、口で触れたものがぜんぶチョコレートになってしまい…。

70年くらい前から世界で読み継がれる、あまくて不思議なお話です。

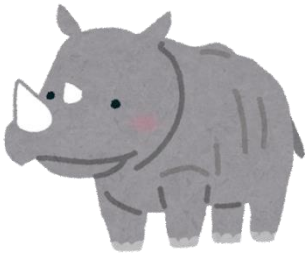
### ＊『111本の木』　ﾘﾅ・ｼﾝ/文　ﾏﾘｱﾝﾇ・ﾌｪﾗｰ/絵　こだまともこ/訳　光村教育図書



男の子が生まれたら大喜びでお祝いし、女の子が生まれたらがっかりするインドの村。村長になったスンダルさんは自分の娘が亡くなったことをきっかけに、「女の子が生まれたら 111本の木を植えよう。18歳までは結婚させず大切に育てよう。」と呼びかけ、村の家を一軒一軒訪ねました。一人の村長の強い思いが村を豊かに変えていった実話です。

### ＊『この世界からサイがいなくなってしまう　アフリカでサイを守る人たち』

味田村太郎/文　学研プラス



南アフリカには世界の 80 パーセントのサイが生息しています。人々はサイを守ろうという意識が高く、国のシンボル的な存在でもあります。そのサイが 20年後には絶滅の危機にあるというのです。今、何がおきているのでしょうか。サイを絶滅から守ることはできないのでしょうか。実際に南アフリカで取材を行った著者からの熱いメッセージです。

## 高学年　5、6年生

### ＊『りんごの木を植えて』　大谷美和子/作　白石ゆか/絵　ポプラ社

みずほの大好きなおじいちゃんの病気が再発したのに、おじいちゃんは積極的な治療をしない選択をしました。残りわずかとなった二人の会話はおだやかで、おじいちゃんの言葉は、これからを生きていくみずほの背中を押すようなやさしさにあふれています。自分の周りの人たちを思いながら読んでみると、書名の意味がわかるかもしれません。

### ＊『風の神送れよ』　熊谷千世子/作　くまおり純/絵　小峰書店

長野県の山間の町で毎年2月に行われている「コト八日」は小学3年生から中学1年生までの子どもたちだけに任されている伝統行事です。江戸時代に疫病がはやった時、それを鎮めるために始まりました。今年6年生の優斗は頭取の凌さんの補佐をすることになっていたのに、凌さんが怪我をしてしまい…。新型コロナウイルスが流行している今を舞台に、行事を通して成長する優斗の姿が描かれています。

### ＊『ぼくの弱虫をなおすには』　K.L.ゴーイング/作　久保陽子/訳　早川世詩男/絵　徳間書店

気弱なゲイブリエルはいやな上級生と同じ校舎になってしまうので 5年生に進級したくありません。5年生にはならないと決めたゲイブリエルに、親友のフリータが弱虫をなおす作戦を考え、夏休みの間二人でその作戦に挑戦するのですが…。大切なものを守りたい時どう立ち向かえばいいのか物語が教えてくれます。1976年のアメリカ、ジョージア州を舞台に、偏見や人種差別についてもふれています。

### ＊『捨てないパン屋の挑戦　しあわせのレシピ』　井出留美/著　あかね書房

パン屋の息子なのにパン嫌いな田村さんは自然ガイドの仕事でモンゴルに行き、遊牧民が食べものを大切にする姿から、自分の探していたのは環境問題を解決する仕事のしかただということに気づきます。お父さんの後を継ぎ、売れ残りを捨てないパン屋になる決意をするのですが、なかなかうまくいきません。あきらめずに挑戦し努力を続ける田村さんの姿から、「いのち」や「ゆたかさ」などの熱い思いが伝わります。